

### 3. ミャンマー

#### 1) 政治・経済・民生の動向

##### (1) アジア経済研究所 「発展途上地域日本語文献目録」1983-1989

年	文献件数	うち農業関係件数
1983	54	4
1984	49	7
1985	31	6
1986	33	6
1987	37	8
1988	47	6
1989	37	7
計	288	44

##### (2) 最近の新聞、雑誌記事 1990.4.- 1991.12. 18件

Time, June 11, 1990. Surprise! Surprise!

選挙は国民民主連盟 (National League for Democracy) の圧倒的勝利に終わったが、Aung San Suu Kyi が実際に政権に就けるかどうかはわからない。

Far Eastern Economic Review, 21 Feb. 1991. Bans and bribes.

ミャンマーの軍事政権 SLORC (State Law and Order Restoration Council) は反対政党の活動を全て禁止した。仏教僧侶でも逮捕するか、賄賂でまるめこむかしている。

FEER, 11 Apr. 1991. 書評 Aung San of Burma by Aung San Suu Kyi. Kiscadale, Edinburgh.

日経 91.4.17. 世界の民族問題 ミャンマーの主要民族と少数民族

FEER, 11 July 1991. Japan in Asia. Part 12. Burma.

日本とミャンマーの因縁は特に深い。最近ヤンゴンで日本の援助によりプラネタリウムが作られたが、これはネウイン将軍が天文学や占いを好むためである。1930年代に日本は 30 人のビルマ人民族主義者に軍事教育を行った。この 30 人が後のビルマ軍の中核となった。

日経 91.9.16. ミャンマーに懸ける橋 松本康熙 (鹿島建設)

日経 91.10.16. ミャンマー軍事政権 ノーベル賞を黙殺

FEER, 3 Oct. 1991. SLORC salvation.

中国はミャンマーに対し、武器を輸出し、中国に軍人を連れてきて、教練を施している。

Japan Times, 22 Oct. 1991. A lonely battle recognized / by Toru Yano.

スーチャー女史は京都大学東南アジア研究センターに留学した縁があり、矢野暢教授は、スーチャー女史の活動を激賞している。

---

担当：濱村 邦夫

FEER, 24 Oct.1991. Cracks in the rock.

ミャンマー軍事政権内部にも亀裂が生じている。

(3) アジア経済研究所 「アジア動向年報 1991年版」

高根 務 軍政主導体制の確立

根本的経済改革（為替相場の切下げ）や西側の経済援助がない限り、経済再建は困難である。

(4) ミャンマー関係文献

1. JICA 1991 ミャンマー シードバンク計画長期調査員報告書
2. AICAF 1979 ビルマの農業
3. JETRO 1989 ミャンマーの農業事情 JETRO海外農林水産情報 25:1-58.
4. 斎藤照子 1988 農業開発の地域的課題—ビルマ 国際農林業協力 11(1/2)
5. 松尾英俊 1987 統計値によるビルマ農業の概況 国際食糧農業情報 578
6. 中村成二 1987 ビルマ農業と普及事業への協力 国際農林業協力 9(4)
7. 松尾英俊 1986 ビルマにおける農業研究の現状 海外農業開発 10:1-8
8. 有松 晃 1983 ビルマにおける農業協力 国際農林業協力情報 6(3)(4)
9. 桐生 稔 1983 ビルマ社会主義下の農家経済 国際農林業協力 6(1)(2)
10. 鶴見和幸 1980 ビルマに対する農林水産業協力の現状 AICAF 3:57-63
11. 河田直美 1988 ビルマの米事情 国際農林業協力情報 11(1)
12. 松野正、藤田雅史 1986 ビルマの稲作生産性に関する調査研究  
熱帯農業 30(4):217-241.
13. 古賀康正 1985-6 ビルマにおける米の加工、流通の概況及び当面する諸問題  
I-VII 輸入食糧協議会報
14. 中川原捷洋、四方俊一 1987 ビルマの稲作 農業及び園芸臨時増刊号
15. 紙谷 貢 1974 ビルマの稲作 「熱帯アジアの稲作」 p.361-371
16. 高橋淑雄 1978 最近におけるビルマの米穀事情と技術協力  
熱帯農業 22:150-157
17. 大野 徹 1989 ビルマ—破綻したビルマ社会主義 アジア研究 35(3):69-88.
18. 荒井利明 1989 ビルマの闇 亜紀書房
19. 伊藤利勝 1984 ビルマの始耕祭とその東南アジアにおける特質  
愛知大学文学論叢 76
20. 地球の歩き方編集室 1991 地球の歩き方(30)ミャンマー
21. ミヤンテイン 1983 剣の山を越え火の山を渡る 井村文化事業社
22. モウモウ(インヤ) 1984 母・道なき道を手探りで 井村文化事業社
23. ティンパーミン 1988 東より日出るが如く 勁草書房
24. トーダースェ 1987 会うは別れのはじめ 勁草書房
25. 1983 現代ビルマ短編小説集 勁草書房
26. セインセイ 1985 迷路の旅 勁草書房

27. ルトウホフ	1986	サルウィン河の筏乗り	新宿書房
28. マ、ガンダー	1986	欠けているところを埋めて下さい	勁草書房
29. シンソウエ	1984	雨漏りしそうな折り畳み傘	勁草書房
30. ミンジョー	1984	茶色い犬	勁草書房

## 2) 農林業動向

### (1) 農業、林業、畜産業、漁業の生産高比率 (データ探索中)

### (2) 主要農産物生産

表 1 主要農産物の生産量 (1989/90暫定、単位 万トン)

農産物名	生産量
米 (粳)	1352
サトウキビ	202
落花生 (殻つき)	52
ゴマ	23
トウモロコシ	20
小麦	16
マッペ (ケツルアズキ)	10
綿花	7
バタービーン (ライマメ)	5
ジュート	3

出所：アジア経済研究所 「アジア動向年報 1991年版」

(3) CAB (1982-91.10) 文献検索	ミャンマーの農林業	17件
TROSIS (熱研スライド情報システム) 検索		0件
沖縄支所中川市に inputs を依頼した。		
TRODIS (熱研文献情報システム) 検索		3件
TROPIS (熱研印刷物情報システム) 検索		3件

## 3) 農林業技術動向

### (1) 在来技術

ミャンマーは六つの管区と六つの州より成る。六つの管区はビルマ族の支配する地域であるが、六つの州はそれぞれ異なった民族の優先する地域であり、山岳地域であるから、農林業の形態も古い。

山岳地の少数民族の焼き畑農業は特に問題視されてはいないが、人口圧が高まればいずれ問題として浮き上がってこよう。

## (2) 資源投入

灌漑普及率は 10% で、カンボジア 3%、マレーシアの 7% に次いで低い。稲の近代品種の普及率は 49% で、フィリピンの 87%、インドネシアの 72%、マレーシアの 54% よりは低い、バングラデシュの 30%、タイの 13% よりは高い。近代品種（高収量品種）は 1976 年の高収量米促進特別計画以降急速に普及したものである。

肥料の投入量（成分量合計）は 11kg/ha で、少ない方である。稲作が一定の水準に達したことから、より収益性の高い商品作物への転換が図られている。特に最近の作付けおよび取引の自由化の措置により、ダイズとゴマの輸出が急増した。しかし、農産物品目の多様化はあまり進んでいない。

## (3) 低投入持続的農業

農業研究所では、サンヘンプ、キンゴウカン、ケツルアズキ、ヒヨコマメなどのマメ科作物を緑肥として導入することを奨励している。

## 4) 国立研究機関(NARS)の現状

(1) ISNAR 1989. A global database on National Agr. Res. Systems.

Personnel. 1984.

PhD	MSc	BSc	Subtotal	Expat	Total
8	24	235	267	--	267

Expenditure.

最近のデータ無し。

(2) Longman Group UK. 1990. Agr. Res. Centres.

Forest Res. Inst.            Yezin

Inst. Agr., Univ. Yangon   Yezin

(3) その他の研究所

Agriculture Research Institute            Yezin

## 5) 研究ニーズ

(1) 国家経済発展計画

ミャンマーでは、中期経済発展計画を定めていないようである。財政省計画局は、1991年から92年にかけて、国民総生産を5.8%増加させることを目標としている。内訳として、農業部門は5.9%、畜産漁業部門は9.3%、林業部門0.9%、工業14.9%の増をめざす（東南アジア要覧、1992年版）。

## (2) 農業政策目標

米（粳）の生産は、1300万から1400万tのレベルであるが、91年10月イラワジデルタの大洪水により減収した。米、食用油については配給制度を続けているが、食用作物の増産と安定化が課題である。

木材伐採権や漁業権をタイその他の国の企業に売って外貨獲得の一手段としているが、対局的には自国による生産、加工が課題となる。

## (3) 農業技術研究目標

- ①米の品質向上
- ②米のポストハーベスト技術
- ③油料作物の生産
- ④輪作体系
- ⑤森林研究（タイに対する木材の輸出）
- ⑥山岳民族 ケシ栽培、焼き畑農業の抑制と定住化
- ⑦畜産（FAOプロジェクト、家畜衛生、研究ネットワーク、国境地域の小農）
- ⑧農業機械（中小型）
- ⑨病虫害防除
- ⑩モヤシ 原材料（マッペ）の生産技術
- ⑪ゴマのMLO(Mycoplasma like organism)

## (4) ミャンマーシードバンク計画リーダー来日

1992.1.16-2.6. Mr.U Myo Nyunt (47) 1.27.に熱研来訪予定。

## (5) 農事試、熱研研修事業（1954-73）卒業生 19 名

## 6) 共同研究への戦略的アプローチ

- ・Yangonに行くか、Yezinに行くか
- ・食料作物か、工芸作物か
- ・技術的なことをやるか、社会経済的なことをやるか
- ・直接的に入るか、間接的に入るか
- ・長期でやるか、短期で対応するか

## 7) 共同研究実施上の問題点

- (1) 援助拡大の時期
- (2) 社会主義国の官僚主義
- (3) JICAの支援

灌漑、林業開発訓練センターのプロジェクトが継続されている。遺産資源のプロジェクトも近く人を送る予定である。

#### (4)生活条件

Yezin の生活条件は耐えられない程のものではない。(JICA遺産資源計画調査報告1991.5.)

##### ヤンゴンのホテル

インヤーレーク ホテル	カンドーギー ホテル
ストランド ホテル	サカンサ ホテル
タマダ ホテル	ガーデン ホテル